

Vol.76 / 新春号

令和5年(2023年)2月1日発行
(年3回7・11・2月発行)



年頭所感

日農工会長
経済産業省 製造産業局長
経済産業省 産業機械課長
農林水産省 技術普及課長
農研機構 農業機械研究部門所長



ISO/TC23/SC6 会合出張報告



EIMA International 出展報告

ひ

ま

日農工会報

わ

り





日農工会報



令和 5 年（2023 年）2 月 1 日発行

VOL.76／新春号

CONTENTS

■ 年頭挨拶

- ◆ 年頭のご挨拶（一般社団法人日本農業機械工業会会長 木股昌俊） 1
- ◆ 年頭所感（経済産業省製造産業局長 山下隆一） 3
- ◆ 年頭所感（経済産業省製造産業局産業機械課長 安田 篤） 6
- ◆ 年頭所感（農林水産省農産局技術普及課長 長峰徹昭） 8
- ◆ 年頭所感（農研機構農業機械研究部門所長 天羽弘一） 9

■ 健康相談 10

■ フォトギャラリー 11

■ ISO/TC23/SC6 会合出張報告

- 一般社団法人日本農業機械工業会 常務理事 川口 尚 14

■ BREAKTIME - Coffee - 18

■ イタリア EIMA International 出展報告

- 一般社団法人日本農業機械工業会 課長代理 吉村英敏 19

■ 日農工だより 22

表紙写真：宮交ボタニックガーデン青島（宮崎市）

年 頭 の ご 挨 拶

木 股 昌 俊

一般社団法人日本農業機械工業会 会 長



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。
また、平素より日農工にお寄せいただいております皆様方のご支援とご厚情に厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の発生から3年目を迎えるも未だに収束には至っていませんが、ワクチンの接種が進み、各国で水際対策が緩和されるなど社会経済活動は正常化しつつあります。

昨年12月の内閣府・月例経済報告によりますと我が国の景気は、「緩やかに持ち直している。」とされており、社会経済活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される一方で、物価上昇による家計や企業への影響、供給面での制約等に十分注意する必要があります。

また、昨年2月のロシアによるウクライナへの侵攻に伴い、穀物や天然ガスなどの世界的な供給不足が生じているほか、過度な円安進行により製造業を中心にマイナスの影響が出ており、予断を許さない状況となっています。

私ども農機業界では、ロボット技術やICT等の先端技術を活用し、超省力化や高品質生産等を可能にする「スマート農業」の実用化と現場への導入が着実に進みつつあり、ロボット農機をはじめとする農業機械への期待が高まっています。

当工業会といたしましても、スマート農業、オープンAPIの推進などを通じて日本農業の課題解決に貢献して参りたいと考えております。

また、地球温暖化の影響が世界各地における異常気象として現れている中、昨年11月に開催されたCOP27で気候変動による被害を支援するため途上国を対象とした基金の創設が決まるなど、温室効果ガスの排出削減への取り組みは今や待ったなしの状況となっております。

農機業界といたしましては、関係業界と連携して電動化や燃料のカーボンニュートラル化などの活動を通じて、地球環境分野にも貢献して参りたいと考えております。

このほかにも、欧米等における化学物質規制の動き、軽油を燃料とする特殊自動車に対する排ガス規制など、農機業界が対応を迫られている新たな課題が次々と出現しており、これらにも積極的に取り組んで参る所存です。

加えて、農作業安全は農機業界にとっても重要な課題であると認識しており、農業者に対する安全意識の啓発や、安全に農業機械をご利用いただくための使い方の周知などについて、行政と協力し、引き続き注力して参りたいと考えております。

農業生産につきましては、令和4年産水稻の作況指数は全国平均で100の「平年並み」となり、また、米価につきましては、コロナ禍による外食需要の減少等から下落が続いていましたが、肥料や燃料等資材価格の高騰、作付面積の減少等から3年ぶりに上昇に転じ、令和4年産米の11月の全銘柄平均の相対取引価格は、前年同月比108%の1万4千円弱となっています。

さて、私ども農機業界の状況を日農工統計から見てみますと、昨年1月から11月までの累計生産・出荷実績は、生産額が4,023億円と前年同期比93%、出荷額が4,174億円、同95%と、いずれも前年を下回る実績で推移しました。

新型コロナウイルス感染が縮小し経済活動が活発化しつつある中で、一昨年の米価下落や農業資材価格の高騰による投資マインドの低下、経営継続補助金による需要増の反動などにより、国内向けの出荷額は、2,183億円で同97%と減少しております。

足下の状況には依然として厳しさがありますが、農業機械が「農業者を支える、より頼もしいパートナー」として、生産性向上の要を担い、しっかりと農業の担い手を支える役割を果たしていけるよう努めて参りたいと存じます。

関係各位のご理解・ご支援をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭所感

山下 隆一

経済産業省製造産業局長



【 はじめに 】

令和5年の新春を迎え、謹んで御挨拶申し上げます。

昨年は、ワクチン接種の拡大等によりコロナ禍から徐々に経済活動が回復しつつあった中、ロシアによるウクライナ軍事侵攻が始まり、これを背景とした国際的な原油・物価高騰や歴史的な円安など、息つく暇もなく新たな危機に直面することになりました。特に我が国の製造業は、半導体をはじめとした部素材の供給途絶やエネルギー価格の高騰など、様々な面で引き続き影響を受けておられると承知しています。

こうした目の前の情勢変化への対応に加え、中長期的な産業構造の変化を見据えた変革にも取り組んでいくことが求められています。私は、政策の重点は「DX(デジタル・トランスフォーメーション)」「GX(グリーン・トランスフォーメーション)」「経済安全保障」の3軸にあると考えています。本年も産業界の皆様と緊密に連携しつつ、この3軸を基礎にしてあらゆる施策を総動員することで、我が国製造業の成長のために全力を尽くしてまいります。

【 経済安全保障・防衛力強化 】

ロシア・ウクライナ情勢に加え、昨年は北朝鮮によるミサイルの発射が繰り返されるなど、我が国を巡る安全保障環境は戦後最も厳しい状況にあると言っても過言ではありません。昨年11月の岸田総理からの指示に基づき、国家安全保障戦略を含む防衛3文書の改定により、今後5年間での防衛力の抜本強化等の方針が示されました。防衛力強化のためには強い防衛産業が必要不可欠である一方、同産業は利益率や事業見

通しの不確実性といった課題を抱えていると認識しています。産業を所管する経済産業省として、産業界の実情を踏まえ、防衛省をはじめとした関係省庁とも連携しながら、防衛産業の強化に向けた取組の具体化に取り組んでまいります。

また、防衛力を高めることはもとより、安全保障の裾野が経済分野へ急速に拡大する中で、国家・国民の安全を経済面から確保することも喫緊の課題となっています。昨年5月に成立した経済安全保障推進法に基づき、我が国では日本の経済構造の自律性を向上させることと、技術優位性を高めて日本の不可欠性を得ることを目指し、様々な施策に取り組んでいます。

例えば、昨年、政府は永久磁石や工作機械・産業用ロボット、航空機部材を含め11物資を特定重要物資として指定しました。これらは広く国民生活・経済活動に用いられ、一旦供給が途絶すると経済に重大な影響を与える恐れのある物資です。これらを含め、経済安全保障の観点からも我が国のものづくり産業基盤が果たす役割は極めて大きいと考えています。このため、先日成立した補正予算においては約1兆円の基金を盛り込み、特定重要物資の安定供給の確保に資する民間企業の設備投資や研究開発の取組を後押ししてまいります。加えて、我が国のものづくりにおける技術的優位性を高め、不可欠性を高めるため、「経済安全保障重要技術育成プログラム」に1,250億円を積み増し、宇宙・航空分野をはじめとする最先端の重要技術の開発にも取り組んでいきます。

【 GX 】

昨年12月、EU理事会と欧州議会は炭素国境調整メカニズムに係る設置規則案を暫定合意しました。ロシア・ウクライナ情勢の中でも、脱炭素に向けた議論は進んでいます。我が国としても、2050年カーボンニュートラルという野心的な目標を変革の好機として捉え、成長へとつなげていく必要があります。しかしながら、日本全体のCO₂排出量の1/3を占める産業部門は、“Hard-to-abate”、すなわち排出削減が困難なセクターと言われているように、GXの実現は容易ではありません。従来とは全く異なる生産プロセス等の実現に挑戦する民間を後押しすべく、規制・支援一体型の投資促進策を講じてまいります。

既に、脱炭素化に向けた長期にわたる研究開発・社会実装を行う企業等に対して、2兆円の「グリーンイノベーション(GI)基金」にて大規模かつ継続的な支援を行っており、水素を活用した次世代製鉄プロセスや、CO₂や廃プラスチックから化学品を合成する製造技術に関するプロジェクト等を進めています。昨年成立した令和4年度第2次補正予算では更に3,000億円での拡充を行ったことに加え、令和5年度当初予算案において約4,500億円を計上したところであり、今後も必要な支援を行ってまいります。

昨年2月に発表した「GXリーグ基本構想」には、既に日本のCO₂排出量の4割以上を占める約600社の企業より賛同を頂きました。本年は、GXリーグを稼働させ、GX経済移行債の発行や排出量取引の枠組みを含む「成長志向型カーボンプライシング構想」を速やかに実現・実行してまいります。予見可能性を高め、企業がGXに向けた投資をしやすい環境作りに取り組んでまいります。

【 DX 】

世界的に、データを用いた価値創造の動きが一層加速しています。我が国製造業においても、サプライチェーンに関するデータ等を集約・管理し、AIや量子、デジタルツイン等と組み合わせることや、工場プロセスを形式知化することで、設計・開発、生産管理など

の高付加価値化や迅速な経営判断を実現していくことが必要です。デジタル分野を中心に起きているレイヤー化等の産業構造の大きな変化を踏まえ、従来の製品・サービスで勝負するものづくりを越えて、幅広い分野・産業・ビジネスを俯瞰した横割りの視点をもった取り組みを進めることで、競争力を高めることが重要です。

しかし、欧米諸国と比較すると、DXを含む無形固定資産への投資が進んでおらず、我が国製造業のデジタル競争力は今のところ高い位置にありません。その原因の一つとして、従業員の学び直しへの投資が不足していることが挙げられます。このため、経済産業省は、リスクリング等を通じて、DXに資する人材の育成に取り組んでいます。

また、個社の取組だけでなく、特に最近では、カーボンフットプリントの把握や人権デューデリジェンスへの対応などにおいて、バリューチェーン全体でのデータ連携の必要性について欧米を中心に議論が進められており、企業の枠を超えたDXも視野に検討を進めていく必要があります。このためには、官民一体での連携が必要であり、経済産業省としては、まずは、例えば、車載用蓄電池などを念頭に、ライフサイクルでの温室効果ガス排出量の算定や、サプライチェーン上におけるリスクを継続評価・低減していく仕組みなどを策定することを目指しています。

さらに、無形固定資産への投資のみならず、ロボットやドローンなどの先進技術導入による生産性向上や価値創造も重要です。特にドローンについては、昨年12月に改正航空法が施行され、有人地帯での補助者なし目視外飛行が可能になりました。これによりインフラ点検や物流、災害対応といった様々な分野でドローンの利活用が進むことを期待しています。また、2年後に迫った大阪・関西万博において「空飛ぶクルマ」の商用運行を開始することを目指し、政府では制度整備や研究開発を進めています。こうした取組を通じて、我が国の先進的な技術を用いた製品開発への投資にスイッチを入れることを目指します。

【 福 島 】

福島の復興は経済産業省の最重要課題です。福島の復興に向け、経済産業省では、福島浜通りへの企業立地や福島浜通りでの実用化開発への補助金等の手厚い支援策を用意しています。皆様におかれましても、こうした支援策を活用し、福島浜通りへの進出を御検討いただければ幸いです。

また、経済産業省は、三陸・常磐地域の水産業等の本格的な復興に向けて、昨年末、官民連携の枠組みである「魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク」を立ち上げました。このネットワークでは、産業界、自治体、政府関係機関等から広く参加を募り、水産物等の売り手と買い手を繋げることで、「三陸・常磐もの」の魅力を発信し、消費拡大を図ります。産業界の皆様におかれましては、ぜひネットワークへの積極的な協力・参加をお願いいたします。

【 おわりに 】

DX、GX、経済安全保障といった新しい経済の軸に合わせ、成長につながる投資の形や事業分野の中身も変わっていきます。産業界においても、こうした構造的変化を適確に捉え、新たな投資を含めた経営リソースの活用方策を考えていただきたいと思います。我が国においても国内の投資を増やそうという意欲が高まってきており、昨年末に開催された国内投資拡大のための官民フォーラムにおいては、経団連から2027年度に100兆円の設備投資の見通しが示されたところです。今こそ大規模な設備投資を行い、投資とイノベーションと所得向上の3つの好循環を生み出す好機です。経済産業省としても、民間における投資を促すべく、様々な施策を通じて予見可能性を高め、企業が投資しやすい環境を作っていきたいと考えています。

最後に、皆様の益々の御発展と、本年が素晴らしい年となることを祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。



年頭所感

安田 篤

経済産業省製造産業局産業機械課長



令和5年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスの世界的拡大から3年弱が経過しました。産業界の皆様には、テレワークの推進や時差出勤、職域接種によるワクチン接種の加速など、様々な形で御協力をいただき、改めて御礼申し上げます。

他方で、昨年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、米中対立、新型コロナウイルスによるパンデミックに引き続き、1990年以降拡大してきたグローバル化を逆回転させる歴史的な出来事となり、これを背景として、世界的なインフレの加速と急激な円安の進行など先行き不透明な状況が続いており、我が国の製造業は、半導体をはじめとした部素材の供給途絶やエネルギー価格の高騰など、様々な面で引き続き影響を受けておられると承知しています。我が国製造業の成長のために引き続き皆様と全力を尽くして進めてまいりたいと思います。

ロシア・ウクライナ情勢に加え、グローバルなサプライチェーンの脆弱性や国家、地域間の相互依存リスクが顕在化する中、昨年5月に成立した経済安全保障推進法に基づき、我が国では日本の経済構造の自立性の向上、技術の優位性、ひいては不可欠性の確保を目指し様々な施策に取り組んでおり、昨年、政府は広く国民生活・経済活動が依拠している必要不可欠な物資として、工作機械・産業用ロボット、半導体、蓄電池を含めた11物資を政令にて指定しております。

令和4年度第2次補正予算では、重要物資のサプライチェーンの強靱化を図るための事業を盛り込んでお

り、特定重要物資の安定供給の確保に資する民間企業の設備投資や研究開発の取組を後押ししてまいります。

経済産業省では、2050年カーボンニュートラルという野心的な目標に向けて、脱炭素化に向けた長期にわたる研究開発・社会実装を行う企業等に対して、グリーンイノベーション基金にて、継続的な支援を行っており、今後も必要な支援を行うとともに、カーボンプライシングの制度の在り方や、特に脱炭素化が難しい(hard-to-abate)産業セクターも含め、規制・支援一体型の投資促進策を講じてまいります。昨年2月に発表したGXリーグ基本構想には、既に日本のCO₂排出量の4割以上を占める約600社の企業より賛同を頂いており、本年は、予見可能性を高め、企業がGXに向けた投資をしやすい環境作りに取り組んでまいります。

新型コロナウイルス拡大の影響もあり、リモートワークなど日常生活におけるデジタル化が幅広く浸透し、物流や小売業等でのロボット導入や、インフラ点検や物流、災害対応でのドローン活用など、新たな技術の活用が拡大するなど、データ連携・利活用をはじめとした、デジタル化の促進や、その実現に必要な技術を持つ人材育成が重要となっております。

経済産業省としては、設備投資やIT導入支援を後押しすべく、ものづくり補助金などの生産性革命推進事業や、リスクリング等に取り組んでおります。

2年後に迫った2025年には、大阪・関西万博において「空飛ぶクルマ」の商用運行を開始することを目指し、政府では制度整備や研究開発を進めています。こ

うした取組などを通じて、経済産業省としては、未来の豊かなモビリティ社会を構築してまいります。

福島復興は、継続して経済産業省の最重要課題です。経済産業省では、昨年末に官民連携の枠組みである「魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク」を立ち上げました。本ネットワークでは、産業界、自治体、政府関係機関等から広く参加を募り、水産物等の売り手と買い手を繋げることで、「三陸・常磐もの」の魅力を発信し、産業界での消費拡大を後押ししていますが、皆様におかれましても、ぜひネットワークへの積極的な協力・参加をお願いいたします。

日本の製造業は、急速に変化し続ける環境の中で、複雑で困難な課題にも多く直面しています。しかし、それらに果敢に取り組みイノベーションを続けることで、安定した成長を続けられると確信しております。引き続き、皆様の現場の生の声をお伺いし、それを産業政策に活かしてまいりたいと考えております。

本年が、皆様にとって素晴らしい1年となることを祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。



年頭所感

長峰 徹 昭

農林水産省農産局技術普及課長



令和5年の新春を寿ぎ、謹んで新年の御慶びを申し上げます。

一般社団法人日本農業機械工業会並びに会員各位におかれましては、日頃から農林水産政策に御理解を賜りますとともに、高品質・高性能な農業機械の開発・生産を通じて、我が国の農業の発展に一方ならぬ御尽力を賜り、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の農業は、人口減少に伴う国内市場の縮小や生産者の減少・高齢化などの課題に直面しているほか、ロシアのウクライナ侵略などによる食料安全保障上のリスクの高まりや、気候変動等の問題にも適切に対応することが求められています。

このため農林水産省においては、「みどりの食料システム戦略」を踏まえた環境負荷低減の取組推進、これらを進めるための土台となる、スマート農林水産業の推進などの施策を着実に進めていくこととしています。

あわせて、生産構造の転換を進め、輸入農産物や輸入肥料原料などへの過度な依存を低減し、我が国の農業の持続的な成長と食料安全保障の強化を図るとともに、制定から約20年が経過した食料・農業・農村基本法についても、総合的に検証し、見直しに向けた検討を進めているところです。

これら施策の展開に向け、昨年末に編成いたしました今年度第2次補正予算や概算決定された来年度予算を通じて、

- ①みどり戦略に掲げた目標の着実な推進に向けた、環境負荷低減に資する農業機械の導入やグリーンな栽培体系への転換の促進
 - ②スマート農業の実装に向けた、サービス事業者と産地とのマッチングやスマート農業機械の導入促進
 - ③国内資源の肥料利用の拡大に向けた、たい肥等の広域流通に必要な機械や施設の整備
- 等の施策を幅広く展開し、様々な課題に対応してまい

りたいと考えています。

また、昨年7月に施行されたみどりの食料システム法に係る仕組みの中で、農業機械の製造事業者から申請いただいた化学農薬や化学肥料の使用量を低減させる農業機械を国が確認し、これを導入する農業者への税制特例を通じて現場実装を促進する制度を創設しました。法施行後の早い時期から多くの会員の皆様から申請をいただいておりますが、引き続き本制度の積極的な活用を御期待申し上げます。

これらの施策を通じて良質な農業機械の導入を促進しているところですが、一方で、就業人口当たりの死者数は、他産業が低下傾向にある中で農業は上昇傾向が続いており、農業を魅力ある産業としていくためにも、農業機械を含めた農作業環境の安全性の更なる向上は大きな課題となっています。

このため、幅広い有識者からなる「農作業安全検討会」での御議論を通じて、乗用型トラクターへのシートベルトリマインダーの設置をはじめとする農業機械の安全性の更なる向上に向けた検討を進めているところです。

また、現場の指導の活性化に向け、農業販売店の皆様にも御参加いただいて約3,700名の「農作業安全に関する指導者」を登録し、農作業事故の発生状況や効果的な事故防止対策等について農業者への研修を行う取組が全国で展開されています。引き続きこうした取組を強力に推進することで、国内の食料生産の持続性を確保してまいりたいと考えています。

昨年来、我が国における食料安全保障の重要性が急速に増大する中、現場を支える農業機械業界の皆様からのお力添えが益々必要となっています。本年においても、引き続き、これら行政施策への御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の益々の御健勝を祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

年頭所感

天羽 弘一

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
農業機械研究部門 所長



新年あけましておめでとうございます。

日頃より農研機構における研究開発業務の推進に対して多大なご理解、ご協力をいただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

我々農業機械研究部門(略称:農機研)は、スマート生産システム技術の開発及び農作業安全推進を担う組織として、農業ロボティクス研究センターや農業情報研究センターとも連携し、ロボット技術や農業機械のデータ連携活用技術の開発を進めているほか、農作業安全の推進に向けた研究や業務も実施しています。

さて、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期が本年3月で終了を迎えます。農研機構が代表を務める「スマートバイオ産業・農業基盤技術」スマートフードチェーンコンソーシアムが、昨年12月に「車両系ロボット農機を基軸とする農作業のスマート化、そしてDX化」をテーマとするフォーラムを開催し、ロボット田植機と無人軽トラックの連携による田植作業等の実演の紹介や、SIP第2期における遠隔監視型ロボット農機及びその支援技術など、農業生産のスマート化に貢献する最新の成果について情報発信を行ったところです。さらに、大規模施設園芸における人件費削減のため、収穫作業時間や収穫量の予測を行う着果モニタリングシステムの開発においては、早期の社会実装を目指し開発を進めてまいります。

また、農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」に対応した有機農業推進のため、昨年から両正条田植機による縦横2方向の機械除草栽培体系の構築に関する研究を開始しました。基盤の目状に苗を移植する両正条植えにより、ほ場の縦横両方向で機械除草が可能となり、除草剤に頼らない水稻の有機栽培体系の構築が期待されます。本年も農機研では農業

機械技術クラスター事業において、両正条田植機の開発を進め、地域農業研究センター等と連携して、両正条植えにおいて最適な品種、栽培方法等を含む総合的な機械除草体系の構築に取り組みます。

一方、我が国の農作業死亡事故件数は年間270件(令和2年)と、依然として多い状況が続いています。農機研では農林水産省等と協力して、農作業事故調査や安全啓発システムの開発を行うとともに、農業機械の安全性検査や農作業安全情報センターによる農作業の安全啓発を通じて、農作業安全対策に努めてまいります。特に、昨年から農林水産省の「安全性能アセスメント事業」において、死亡事故が多発している農用運搬車の特性を踏まえた新たな評価試験方法及び評価基準の開発を進めています。また、トラクタの転落・転倒時にシートベルト未装着によりトラクタの下敷きになる死亡事故を減らすため、シートベルト装着を推し進める対策についても検討を行い、農機研が実施する安全性検査の検査基準案を作成します。さらに、スピードスプレヤーの主な事故要因である「転落・転倒」、「挟まれ」に重点を置いた対策強化についても議論を進めています。引き続き農機研は農作業事故減少に貢献できるよう様々な取組を行います。

ロボット技術の開発や農作業安全の推進はもとより、OECDトラクタテストコードやISOにおける試験方法の国際標準化の推進に当たっても、日本農業機械工業会及び会員の皆様のご理解とご協力が不可欠であると考えております。今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

最後に、本年が貴会及び貴会員の皆様にとって、実り多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

Q: 白内障で手術を検討中。 2種類の眼内レンズとは？

〈相談者／48歳 男性〉

眼科クリニックで白内障の点眼治療を続けてきましたが、以前より強くぼやけて見えるようになりました。手術を考えはじめましたが、手術を受けた人から、「手術しても、すべてがはっきりと見えるようになるわけではない」といわれました。手術時の眼内レンズには単焦点と多焦点の2つのタイプがあるようですが、それぞれの見え方と手術について教えてください。

A: 術後の見え方に違いがある。

十分説明を受けてから手術を

「白内障」とは、目の中でレンズの働きをしている透明な水晶体が白く濁ってしまったために、見えにくくなる病気です。加齢による白内障がもっとも多く、70代では80%以上の方が罹患していますが、40代後半から出現することもあります。

白内障になると、霧がかかって見える、ぼやける、薄暗くなるとかすむ、明るいところでまぶしい、片目で物が二重・三重に見える、視力が低下する、などの症状を感じるようになります。このような症状は水晶体が混濁している場所と程度によって異なります。

白内障の治療には、薬物療法と手術療法があります。薬は進行を抑える働きがありますが、一度混濁した水晶体を再び透明にすることはできないため、困っている症状を改善させたい、と感じるようになったら手術を受ける必要があります。

手術は、白目と黒目の境を2~3mm切開して水晶体の前側の殻を丸くくり抜いたあと、細い管を殻の中

に入れ、混濁した内容物を超音波で碎きながら吸い出し(超音波乳化吸引術)、空になった殻の中に眼内レンズを埋め込みます。手術中の痛みはほとんどなく、手術時間は10~30分程度です。傷口が非常に小さく、白内障以外に病気がなければ術後の見え方は良好であるため、早期に社会復帰ができます。

通常、挿入される眼内レンズは焦点が一つの単焦点レンズであるため、どこにピントを合わせるかを手術前に決める必要があります。遠方にピントが合う度数の眼内レンズを挿入すると、眼鏡なしでは手元はピンボケの状態となり、老眼鏡の使用が必須となります。しかし、どこかの距離に合わせた眼内レンズを挿入しても、術後に累進多焦点レンズの眼鏡をかければ、遠距離、中距離、近距離のものがすべてくっきり見えるようになります。

多焦点眼内レンズは、遠・近の2カ所、または遠・中・近の3カ所にピントを合わせることができると、眼鏡なしで日常生活を送りたい人には適したレンズです。しかし、像のコントラストが悪くなる、光がにじむ、見え方が安定するまでに時間がかかる、片目だけの手術やほかに目の病気をもっている人には不向き、選定療養の対象であるため通常の保険適用より高額で医療機関が限定される、などの問題点があります。

自分に適しているレンズについて、手術前に十分説明を受けるようにしてください。

回答者：東京慈恵会医科大学名誉教授
常岡 寛 氏



Photo Gallery



タイトル： 秋田県立小泉湯公園 （撮影：11月2日）

埼玉県 金子常雄さん

今年3年ぶりに開催された秋田県種苗交換会農業機械化ショーを視察出張の折、立ち寄りました。

近隣には我が社の営業本部社員の母校で野球の強豪名門校、金足農業高等学校があります。

刻々と変わる秋の深まりを感じました。

タイトル：「河口湖・うさぎ神社」

匿名希望 さん

新年あけましておめでとうございます。

今年は卯年！ということで以前訪れた「うさぎ神社」の写真です。狛犬ならぬ「狛うさぎ」が可愛いこぢんまりとした神社です。カチカチ山の舞台『天上山』にあり、物語に登場するウサギにあやかって賢い知恵や健康な脚を祈願しています。

調べてみると全国には沢山のウサギにまつわる神社があるようですね。ウサギは多産で耳の長いことから、子孫繁栄や商売繁盛などのご利益もあるとか。各地を巡ってみるのも楽しそうです。

今年1年、良い年となりますように。





【 寄り道 フォトギャラリー in 宮崎 】

11月7日(月)に日農工の地方大会が「宮崎市」で開催されました。

宮崎県は日本神話の物語にまつわる地が多く点在する『神話の里』とも呼ばれています。そんな宮崎の魅力あふれるパワースポットをご紹介します。

宮崎市にある「宮崎神宮」は初代天皇である神武天皇を祀る神社。緑豊かな広い敷地に足を踏み入れると一瞬で神聖な雰囲気包まれる。

10月末に開催されている宮崎神宮大祭は、五穀豊穡を祝う宮崎県下最大の祭事で「神武さま」の愛称で地元の人たちに親しまれている。

令和4年は3年ぶりの開催となり大勢の見物客で賑わったとのこと。



←本殿は落ち着いた木造で、歴史を感じる厳かな雰囲気。



① 宮崎神宮

〒880-0053

宮崎県宮崎市神宮2丁目4-1

<https://miyazakijingu.or.jp/>



青島の中央にある「青島神社」は、有名な神話「海幸彦・山幸彦」の舞台であり、山幸彦と豊玉姫が結ばれた地でもあることから、縁結びにご利益があると言われる。

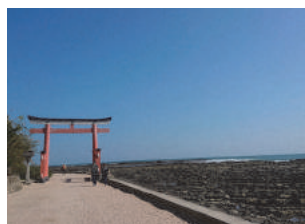
② 青島神社

〒889-2162

宮崎県宮崎市青島2丁目13番1号

<https://aoshima-jinja.jp/>

→ 青島全体が境内とも言われ、島へとかかる弥生橋を渡って参拝する。島を取り囲む「鬼の洗濯岩」も見どころのひとつ。





日南海岸の小高い丘の上に位置する「サンメッセ日南」には、イースター島から特別許可を得て復元されたモアイ像がある。眺めも抜群な海沿いには7体のモアイ像が並んでいて、仕事運や金運、恋愛運など、それぞれに意味合いがあり、触れるとパワーをもらえるとか。

③ サンメッセ日南

〒887-0101

宮崎県日南市大字宮浦 2650

料金：大人 1000 円、中・高校生 700 円
4 歳以上 500 円

<https://www.sun-messe.co.jp/>



↑敷地内にはカラフルなオブジェや空中ブランコなどの写真映えスポットもたくさん。



宮崎県南部の日南市にある「鵜戸神宮」は日南海岸の日向灘に面した絶壁にあり、洞窟の中に本殿がある珍しい神社。国の名勝にも指定されている。夫婦円満、安産祈願のご利益がある。

④ 鵜戸神宮

〒887-0101

宮崎県日南市大字宮浦 3232 番地

<https://www.udojingu.com/>



← 亀石：本殿前にある霊石で、豊玉姫が海神宮から来訪する際に乗った亀が石と化したものと伝えられている。

素焼きの玉「運玉」を、男性は左手、女性は右手で亀石に向かい投げ入れ、見事中央のくぼみに入ると願い事が叶うと言われている。



「運玉」(5 個 200 円)



宮崎グルメといえば、チキン南蛮！

「チキン南蛮」は鶏のから揚げを唐辛子入りの甘酢のタレ“南蛮酢”に浸した鶏料理です。



発祥は延岡市のあるレストラン。もともとは「鶏から揚げの甘酢漬け」と呼ばれて賄い料理で出されていました。働いていた料理人が独立をして、賄いを工夫して自分のお店のメニューとして提供するようになり、「チキン南蛮」が広まっていったそうです。今では当たり前の「タルタルソース」がかかっているのは元祖のお店「おぐら」のオリジナル。また同じく元祖のお店「直ちゃん」は甘酢のみで提供されていて違いがあるのも面白いです。

ISO/TC23/SC6 会合出張報告

1. はじめに

日農工は、JISC(日本産業標準調査会)の承認の下、当会が国内審議団体となっている ISO/TC23(専門委員会:農業用トラクタ及び機械)のすべての SC(分科会)に参加登録を行っています。

昨年 9 月に米国ミシガン州のセント・ジョセフで開催された SC6(収穫物保護設備)のプレナリー(全体会議)及び WG(作業部会)25 の第 17 回会合に出席しましたので、その概要を報告します。

WG25 は、無人航空機用噴霧システムに係る国際規格開発を検討する作業部会で、2019 年 6 月にスペイン(バルセロナ)で、同年 10 月に中国(深圳)で開催された後は、新型コロナウイルスの影響でリモート方式により開催されていました。

SC6 の全体会議も、やはり 2020 年のブラジルでの会合がコロナの影響で流れてしまい、2021 年のスウェーデンでの会合は WEB 方式による開催となりましたが、今年 9 月に 3 年ぶりでフェイス・トゥ・フェイスと WEB 方式のハイブリッドでの開催となり、これと併せて WG25 の会合が開かれた次第です。

WG25 では無人航空機による農薬散布における分布状況測定試験方法に関する規格案及び中国が提案したドリフトの測定方法に関する規格案についての検討が行われました。日農工は専門家を派遣し、規格案の検討に参画しました。

2. 審議の経過と日本の対応

(1) 審議の経過

WG25 における審議の経過やこれまでの審議の概要については「ひまわり(66 号、67 号)」に詳細な記録が掲載されているので、そちらを参照してください。

2019 年 10 月の中国(深圳)での第 4 回会合以降、WG25 は WEB 会議の形式で開催されてきました。

当初は試験方法を含む 1 本の規格を策定するという方針でしたが、深圳での会合で、パート 1(環境要件)、パート 2(水平方向への落下量評価に関する試験方法)の 2 本の規格に分割することになりました。さらに 2021 年にはパート 3(無人航空機を用いた農薬散布におけるドリフトの屋外測定方法)、パート 4(無人航空機を用いた農薬散布における農作物群落内への液滴付着量の測定方法)の 2 つの規格案が中国から提唱されました。投票の結果、パート 3 は可決され、パート 4 は否決されたにも関わらず、2021 年の SC6 全体会議での検討の結果、WG25 では両規格の案についてさらに検討を行うことになりました。

昨年 9 月の第 17 回 WG25 会合では、ISO CD(委員会原案)23117 パート 2 に対して各国から提出されたコメント及び WD(作業原案)23117 パート 3 に関する各国コメントについて審議するとともに、NWI(新規作業項目)23117 パート 4 の今後の取り扱いについて議論しました。

(2) 日本の対応

日農工は、国内の関係メーカー、学識経験者等をメンバーとする国内審議委員会 WG を設置し、ISO23117 の規格案について検討を行うとともに、これまでに開催されたすべての WG25 会合に WG メンバーが出席して規格案について意見を述べてきました。

さらに、2020 年には農林水産省の補助事業により、風の影響のない室内において無人航空機による農薬散布での落下量分布測定試験を行い、試験結果を取りまとめて WG25 に報告するなど、規格化に向けた検討に貢献してきました。

このような日本の貢献は WG25 において高く評価されています。

3. ISO 23117 の審議内容

SC6/WG25 がアメリカ(ミシガン州セント・ジョセフ)で開催され、日本からは専門家を派遣して国内審議委員会 WG で取りまとめたコメントを提出するとともに、各国から提出されたコメントのレビューに参加して意見を述べました。会議の概要は以下のとおりです。

【日 時】 令和 4 年 9 月 12 日(月)～9 月 16 日(金)

【会 場】 アメリカ合衆国 ミシガン州セント・ジョセフ

【出席者】農研機構農業環境研究部門:小原裕三、
日農工:川口尚(現地出席)
農研機構農業機械研究部門:川瀬芳順、
㈱丸山製作所:湯浅一康、日農工:松山
徹、坂根弘史(リモート出席)

(各国からの出席) ブラジル、フランス、アメリカ、インド、イギリス、ドイツ、オランダ、中国、スウェーデン、スペイン、イタリア、日本の 12 개국から 42 名が出席(現地参加 31 名、リモートでの出席を含む。)

【WG25】 9 月 14 日～9 月 15 日

《9 月 14 日》

- ①開会
- ②議題の採択
- ③ISO WD23117-3 に対するコメントのレビュー
- ④プレゼンテーション(Dr.Rhee(韓国)、Bals 氏(英国)、McClimont 氏(英国))
- ⑤ISO CD23117-2 に対するコメントのレビュー

《9 月 15 日》

- ①ISO NWI23117-4 の取扱いに関する議論
- ②ISO CD23117-2 に対するコメントのレビュー(前日からの続き)
- ③今後の会合に関する打合せ《10 月 25 日》

【現地視察】 9 月 12 日

セント・ジョセフから自動車で 30 分程のミシガン州立大学サウス・ウェスト研究・普及センターを訪問し、最新の防除用機械の展示とデモンストレーションを見学するとともに、ミシガン州立大学の研究者などによるプレゼンテーションを受けました。防除用機械

の展示では、ジョンディア社、ケース社の自走式大型ブーム・スプレーヤー、GUSS 社の自動走行式スピード・スプレーヤー、トラクタ直装式のエアブラスト・スプレーヤー(スピード・スプレーヤーのような防除機)が展示され、このうち自動走行式スピード・スプレーヤー、トラクタ直装式ブラスト・スプレーヤー、さらにマルチコンピュータタイプの農薬散布用無人航空機による散布については圃場での実演も行われました。



TC23/SC6/WG25 の会議風景



現地視察におけるプレゼンテーション



ジョンディア社の自走式スプレーヤー



GUSS 社の自動走行スピード・スプレーヤー



トラクタ直装式スプレーヤー

[SC6 プレナリー] 9 月 15 日～9 月 16 日

- ①開会
- ②事務局からの報告
- ③機械指令の改正等に関する CEN/TC144 との連携について
- ④各 WG からの報告
 - ・WG6(噴霧器の洗浄)
 - ・WG18(ノズル及び噴霧器の試験方法)
 - ・WG20(空中散布機)
 - ・WG21(スプレードリフトの実験室測定方法－風洞)
 - ・WG22(ISO 4254 - 6 の改定)
 - ・WG25(無人航空機による噴霧システム)
 - ・WG27(スプレードリフトのパラメーター)
 - ・WG28(環境要求)
- ⑤システムティック・レビュー
- ⑥今後の作業項目

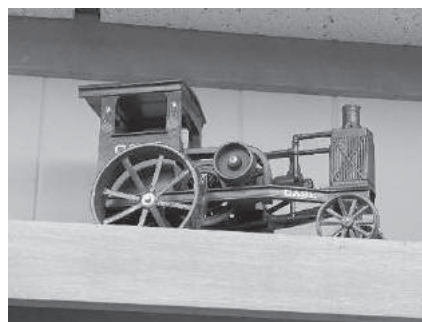
SC6 プレナリーが終了した 9 月 16 日の夕方には、今回の会議の事務局を務めてくれたアメリカ農業工学会 (ASABE) が、参加者を本部に招き、バーベキューでもてなしてくれました。学会本部のライブラリでは、設立当初の文献など貴重な文献資料を見せていただき、良い経験になりました。



TC23/SC6 全体会議の風景



会議終了後の BBQ



アメリカ農業工学会のライブラリに展示されていたケース社の蒸気機関トラクタの模型

4. 雑感

(1) 新型コロナによる海外渡航の制限が緩和されて以来、初めての海外出張となりました。アメリカまでの飛行機の機内ではすべての乗客がマスクをしていましたが、シカゴのオヘア空港に到着して機外に出たら、日本人と思われる人たちがほとんど誰もマスクをしていませんでした(少ししてから WG25 のコンビナーである韓国のリー先生一行がやってきましたが、リー先生一行はちゃんとマスクをしていました。)。帰国前 72 時間以内の PCR 検査陰性という要件が解除されたので大分気楽になりましたが、それでもコロナ感染を回避するためにマスクを外すことに抵抗がある自分自身に「日本人だなあ」と変な感心をしてしまいました。

(2) オヘア空港からセント・ジョセフまでは主催者が用意してくれたバスで移動しましたが、高速道路の路肩にはバーストしたタイヤの切れ端がゴロゴロころがっていました。一緒に出張した小原さんがアメリカの道路は日本と違い、ほとんどがコンクリート舗装だと指摘されたので、そのこともバーストの多さに関係しているのかもしれません。後で調べてみると、コンクリート舗装はアスファルト舗装に比べて費用、施工時間ともに掛かるけれど、耐久性が高いという理由でコンクリート舗装にしているということのようです。たしかにアスファルト舗装では重量の重い自動車が頻繁に走行する箇所に轍ができやすく、水が溜まったりハンドルを取られることが多いですね。

(3) アメリカ国内の物価上昇に円安が加わり、アメリカでは何でも非常に高価に感じました。オヘア空港内のマクドナルドでチーズバーガーとコーヒーを注文したら、それだけで 1,000 円以上になり、ビックリしました。会議が行われたセント・ジョセフでは、毎日、会議場の外(街なか)で昼食を食べたのですが、最低でも 1 食当たり 2,000 円以上になってしまいました。コロナウイルスによる渡航制限は解除されましたが、為替レートがもっと円高に変わるまでは、プライベートでの海外旅行は見合わせるしかないと感じた次第です。

(文責 : 川口 尚)

< BREAKTIME >



Coffee

コーヒー



万人の知るところではありますが、コーヒーに含まれる「カフェイン」という成分には脳の活性化と集中力を高める効果があります。眠気覚ましに毎日の習慣として飲んでいる方も多いのではないのでしょうか。

「カフェイン」によって脳が覚醒を始めるのは摂取してから 20～30 分後。覚醒効果は 5～7 時間続くため、就寝 6 時間前には避けたほうがよいと言われています。

ただ、ちょっとした仮眠を取る前にコーヒーを飲めば約 20 分後には覚醒が始まるため、スッキリと目覚めることができます。人は昼寝をすることで午後の作業効率が上がると言われていいますので、『食後のコーヒー＋お昼寝』を日々の生活に取り入れてみるのも良いかもしれません。

さてコーヒーはダイエットと美容の面でも効果が期待できます。「カフェイン」には覚醒作用の他にも、消化酵素の活性化を促し脂肪が分解されやすくなる効果や、胃腸の働きを良くして便秘解消、利尿作用によるむくみの解消の効果があります。同じくコーヒーに含まれる「クロロゲン酸」というポリフェノールの一種は、脂肪分解と蓄積予防、抗酸化作用による美肌効果があるのです。

コーヒーによる効果はまだ研究が進められており、がんや動脈硬化、認知症の予防、内臓脂肪の減少など、健康効果も高いと言われています。

ただし、人によっては飲み方にも注意が必要で、
◇糖尿病の人は食前か空腹時に
◇胃の弱い人は空腹時を避けるか、ミルクを入れて
◇妊娠中や授乳中の人は出来るだけカフェインを控える(カフェインレスのものを選ぶ)
など、体調に合わせて摂取をしましょう。
上記に当てはまらなくても、過剰摂取は体に悪影響

が出る可能性もあるため、一日に 3～5 杯までを目安にしてください。

最後に、コーヒーは香りにも癒し効果があります。特にコーヒーを淹れた瞬間の、ふわっと立ち上る香りに気持ちをリラックスさせる効果が。

最近ではコンビニのコーヒーやコーヒーチェーン店もたくさんあり、コーヒーは手軽に飲めるものですが、たまには自宅でドリップコーヒーを淹れて、ゆったりとした時間を楽しむのも良いですね。

～ 基本のドリップコーヒー(1 杯分) ～

①コーヒーを入れる準備

カップやドリッパー等は事前に温めておく。
お湯は 95℃前後になるよう、沸騰したら火を止め、表面の泡が静まるのを待つ。

②ドリッパーにペーパーフィルターをセット

フィルターの底と側面を折り、密着させる。

③フィルターにコーヒー粉を入れる

コーヒー粉は 1 杯につき 10～12 g が目安。
ドリッパーを軽く振って表面を平らにする。

④蒸らす

少量のお湯を中央にそっと注いで粉全体に含ませ、30 秒ほど蒸らす。ポタポタと下に数滴落ちてくるのが目安。(20ml 程)

⑤お湯を注ぐ

水位を一定に保ちながら、注ぐお湯を 3 回に分けてゆっくりと注ぐ。

1 回分のお湯を注いだら、水面が上から 1/3 程度減るまで待ち、次の分のお湯を注ぐようにする。(目安 140～160ml)

【注ぐ時のポイント】

- ☆注ぐお湯の角度は 90 度
- ☆中心に小さく「の」の字を描く
- ☆フィルターの壁に当たらないよう注意

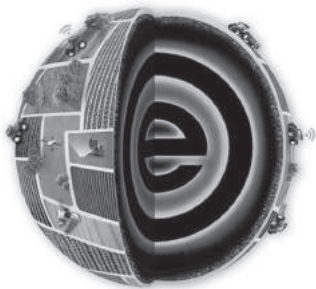


⑥最後まで抽出せずにドリッパーを外す

雑味が入るのを防ぐため、必要な分を抽出したらすぐにドリッパーを外す。

イタリア EIMA International 出展報告

ESPERIENZA
GLOBALE
GLOBAL
EXPERIENCE



BOLOGNA
9-13 NOVEMBRE/
NOVEMBER 2022

○はじめに

2年に1度、イタリアのボローニャで開催されている欧州最大級の農業機械展示会 EIMA にて主催者 FEDERUNACOMA より日農エブースを提供いただき、参加しましたのでその報告をします。

○概要

名 称 : International Agricultural and Gardening Machinery Exhibition

場所 : [BolognaFiere] Via della Fiera, 20-40127 Bologna

開催期間 : 2022 年 11 月 9 日～11 月 13 日

来場者数 : 327, 137 人

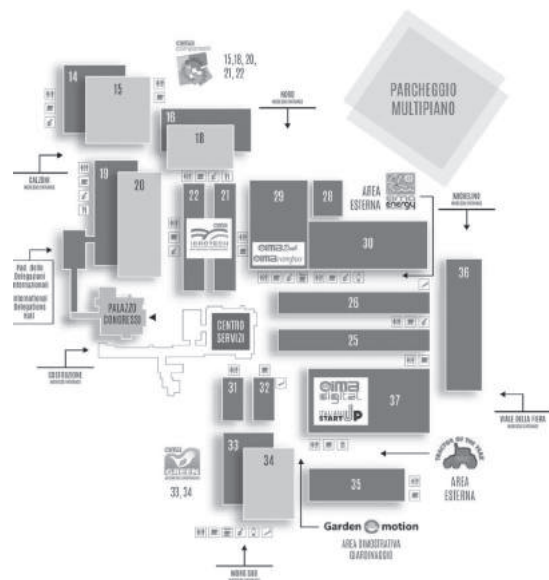
出展社数 : 1, 531 社

○日程

11 月 9 日 : 午前 出発(羽田→ボローニャ)

11 月 10 日～13 日 : 展示会

11 月 14 日～15 日 : 午前 帰国



展示会場全体図



会場入口



日農エブース ホール 35,B7



井関農機 展示ブース



記者会見 Francesco Lollobrigida 農林水産大臣



クボタ 展示ブース



トラクターショー(走行実演)



ホンダ 展示ブース



ヤンマー 展示ブース

〇所感

初めて EIMA に参加させていただきました。展示会を見て感じたことは、規模の大きさと来場者の多さでした。すべてのホールを見て回るのに、1 日では終わらず 2 日間かかりました。ホール間の移動も含め、スマホの歩数計で約 7 万歩になっていました。大きな展示会と聞いていましたが、規模の違いを感じました。展示製品では、トラクター、作業機をはじめ大型製品が主体で小型製品は少なく、イタリアの農業規模が大きいのだと実感しました。また、防除用ノズル、ヒッチ、IT 関係、公道走行用の表示版・灯火装置などの部品関係など、農機関連の多種多様なブースがありました。屋外では、トラクターショーとして走行実演会がありました。複数台の大型トラクター走行はかなり迫力がありました。会場内は 10 時ごろまでは人も少なく、ゆっくりブースを見て回れましたが、11 時ごろから混雑し始め、移動するにも一苦

労になり、有名ブランドメーカーのブースは東京の満員電車のような様子でした。子供連れの家族や若い人、学校の授業かと思いますが、先生に引率された学生など来場者の年齢層も幅広く、敷地内には飲食店も多数あり、展示会というよりお祭りのようでとても活気がありました。日農工のブースでは、会員紹介冊子(製品カタログ兼用)250部を持ち込み完配しました。

○番外編

1. Ducati Museum

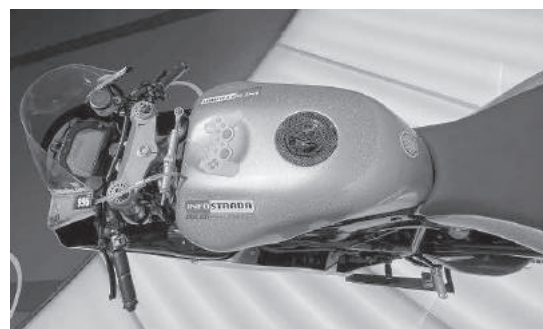
ボローニャ空港の近くにあるドゥカティミュージアムに行ってきました。工場見学付(€32要予約)もありましたが、今回は博物館のみ見学(入場料€17)してきました。博物館は創業時の紹介、歴代のバイクやMotoGP優勝トロフィーなど展示、展示品ごとにスマホで音声ガイドを聞くことができます。昔はラジオ、電機シェーバー、計算機など製造していたみたいです。売店もありドゥカティのヘルメットやライダーズジャケットなど購入できます。館内はそこまで広くなく、1時間あれば十分見て回れます。バイク好きの方におすすめです。個人的には996F01のタンクに付いていたプレステコントローラのステッカーが印象的でした。機会があれば、今度はMvアグスタ本社があるヴァレーゼに行ってみたいと思います。



場所[Ducati Museum]
Via Antonio Cavalieri
Ducati, 3, 40132 Bologna



博物館内の様子



Ducati 996F01 のタンク

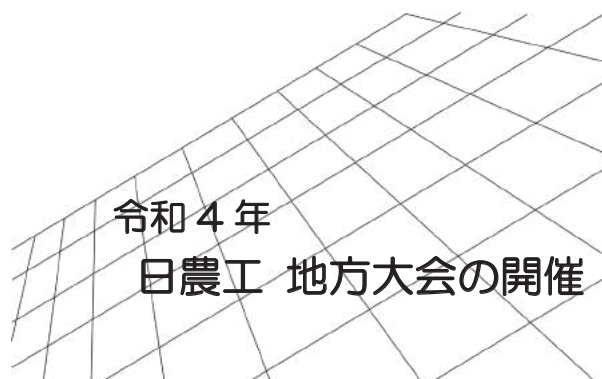
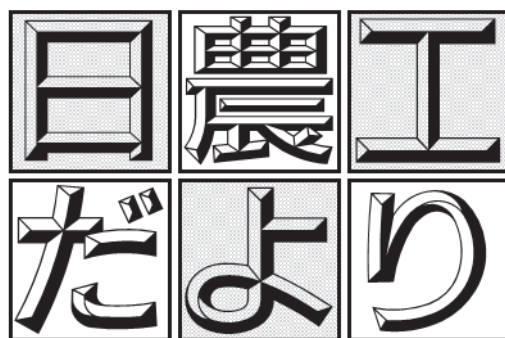
2. ヴェネツィア

水の都ヴェネツィアに行ってきました。ボローニャセントラル駅から1時間30分ほどで到着します。幸いなことに天気も良く青空の中ヴェネツィアらしい景色を見ることができました。サンマルコ広場にある世界最古のカフェ店&カフェラテ発祥のカフェフローリアンに入りました。テラス席で広場を見ながら飲食できました。



帰りの電車の関係でガス灯が灯る景色は見られませんでした。大変貴重な体験をさせていただきました。

(文責： 吉村英敏)



令和4年 日農工 地方大会の開催

令和4年11月7日(月)宮崎県宮崎市『宮崎観光ホテル』にて、令和4年度地方大会を開催いたしました。

議事内容は以下の通りです。

1. 会長挨拶
2. 来賓挨拶
3. 地方大会(臨時総会)
 - (1)理事の交代について
 - (2)令和4年及び5年の需要見通しについて
 - (3)その他：今後の主な行事予定
4. 第165回理事会
 - (1)会長及び専務理事の職務執行状況報告について

《令和4年及び5年の需要見通し》

国内出荷台数前年比(単位:%)

部会・委員会名	R3年 見通し	R3年 結果	R4年 見通し	R5年 見通し
トラクタ部会※	105	105.8	96	100
管理機部会	103	105.9	95	99
田植機部会※	102	98.2	95	101
収穫機部会				
コンバイン※	100	97.4	95	99

バインダ	83	104.0	84	95
防除機部会	104	103.2	75	105
動噴・動散計	104	103.1	75	105
走行式防除機計	111	106.8	78	94
刈払機部会	98	96.1	87	96
作業機部会	106	105.5	97	96
車両部会	107	111.0	83	99
調製・米選機部会				
脱穀機	106	113.1	94	95
籾摺機	94	91.0	87	111
米選機	98	88.7	89	99
乾燥機部会	96	94.9	89	99
精米機部会				
精米機	101	95.2	97	100
コイン精米機	99	113.6	96	101

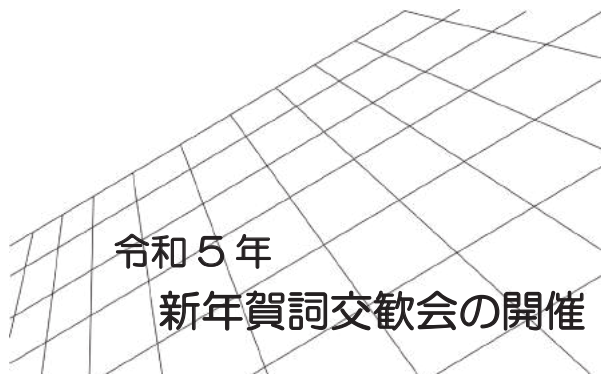
日農工統計:輸出金額対前年比(単位:%)

国際委員会	131	130.6	94	101
-------	-----	-------	----	-----

※印は、実販台数見通し



地方大会の様子



令和5年1月11日(水)東京都港区白金台・八芳園にて、新年賀詞交歓会を開催いたしました。

来賓として、経済産業省 藤本武士 審議官、農林水産省 安岡澄人 審議官から新年のご挨拶をいただきました。

昨年に続き、新型コロナウイルス感染の徹底回避の観点から、参加は事前にお申込みいただいた会員・関係省庁の方に限らせていただき、歓談と飲食の時間帯と会場を分けて執り行いました。

皆様のご協力により滞りなく新年賀詞交歓会を終えることができました。深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響が未だ見通せない情勢ではありますが、今後も情報発信並びに安心安全な会議の開催に努めて参ります。

本年も変わらぬご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



木股会長 新年のご挨拶



経済産業省大臣官房 藤本審議官



農林水産省大臣官房 安岡審議官



会長・副会長による立礼



昼食会の様子

◆ アグリエボリューションがニュースレター2022 秋季号を発行

世界の14か国・地域の農機関連業界団体の集合体であるアグリエボリューションでは、定期的にニュースレターを発行しています。

各国・地域の農機・農業関連のトピックスを掲載した2022年秋季号が届きました。

下記のURLより閲覧できます。

【Agrievolution Alliance Newsletter - Fall 2022】

https://newsletter.agrievolution.com/cms/Pagina.action?pageAction=&page=CMS_Newsletter.8



◆ 投稿写真を随時募集しています！

ひまわりでは「フォトギャラリー」に掲載する投稿写真を募集しています。

デジタルカメラやスマートフォン等で撮影した写真データと一緒に、①タイトル ②コメント ③名前(ご希望の方はPN)④ご連絡先 を明記の上、広報委員会までメールにてご応募ください。

- ・ 季節を問わずジャンルは自由です。ただし、肖像権や著作権には十分ご注意ください。
- ・ 写真には必ずタイトルとコメントを添えてください。
- ・ 採用された方にはお礼の品を送らせていただきます。

【応募先】(一社)日本農業機械工業会 広報委員会
E-mail : sunflower@jfmma.or.jp

→ 詳しくは日農工のホームページをご覧ください。

<http://www.jfmma.or.jp/himawari.html>

今後の主なスケジュール

- ◇ 令和5年3月9日(木) 幹部会・理事会
機械振興会館(東京都港区芝公園 3-5-8)
- ◇ 令和5年6月1日(木) 定時総会
八芳園(東京都港区白金台)
- ◇ 令和5年11月9日(木) 地方大会
ザクラウンパレス新阪急高知(高知市)

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況によっては、Web会議での開催や、開催中止等の判断をさせていただきます。

🌻 編集後記 🌻

集合写真あれこれ

2022年も多くの集合写真を撮りましたが、カメラ（スマホ）を向けられると自然と笑顔になりますね。笑顔の集合写真3選です、ニコッ。

- ▽ 今日は絶好のゴルフ日和だから良いスコアが出そうだぜ、と思わず笑みが出ます。数時間後に、天候とスコアは全く関係がないことに気づくことになります、、、。

芝目の強い高麗芝のグリーンは素人には難しすぎましたね。



- ▽ 城内の経済状況や企業の動向などの真面目な話をした後はこんな顔になります。相変わらず優しい笑顔でお話される広島県の玉井優子副知事におかれては、益々のご活躍を期待したいと思います。次の知事選に出馬されるのでは、、という噂あり。



- ▽ タイ国の農機ディーラーのヤリ手女社長さん、才色兼備の笑顔が眩しすぎます。どうやら天は二物を与えてしまったらしい、、、。

笑顔があればどんな苦難も乗り越えられる、という良いお手本ですね。



ひまわり 一日農工会報 Vol. 76 / 新春号

令和5年(2023年)2月1日発行

発行人／ 田 村 敏 彦

発行所／一般社団法人 日本農業機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号(機械振興会館)

TEL 03-3433-0415 / FAX 03-3433-1528

URL <http://www.jfmma.or.jp>

E-mail sunflower@jfmma.or.jp